



東京 ドキュメンタリー 映画祭 2021

Tokyo Documentary Film Festival

2021 12.11_{SAT} ▶ 12.17_{FRI}

新宿 K's Cinema

長編コンペティション審査員 ジャン・ユンカーマン／村山匡一郎

短編コンペティション審査員 阿武野勝彦／中村真夕

人類学・民俗映像審査員 中沢新一／北村皆雄

コロナ禍の困難な時代に
監督たちと観客の出会いの場をつくる！



人類学部門を新設、過去最高約60本の長編・短編を上映
コンペティションの他、みんなで選ぶ「観客賞」もあります

ARTS COUNCIL TOKYO



芸術文化振興基金

4年目の映画祭は、昨年に引きつづきコロナ禍での開催ですが、応募数は過去最高の200本以上になりました。この困難な時代にドキュメンタリー作品を撮るつくり手をサポートするべく、過去最高の60本弱を一挙にスクリーン上映します。上映作品には、コロナ禍の芸術家たち、医療従事者、国境の島々、外国人移民、性的マイノリティなど、この社会の多様性を反映したカラフルな人びとが登場。新設の「人類学・民俗映像部門」には40本を超える応募があり、コンペの受賞作に民俗映像の先駆者の名を冠した「宮本馨太郎賞」が贈られます。

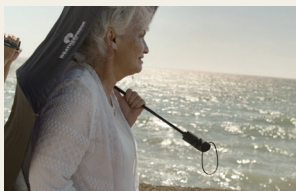
金子遊・佐藤寛朗（「東京ドキュメンタリー映画祭」プログラム・ディレクター）

長編・短編のコンペティション部門の上映作品は、お客様の投票による「観客賞」の対象となります

長編プログラム

1 Yokosuka 1953

12.11[土] 10:00-



1947年、戦後の横須賀に日本人の母と外国人の父との間に生まれた木川洋子 (Yoko) は、当時の過酷な状況下、養子縁組でアメリカへと渡り母との離別を余儀なくされた。母はどのように生きたのか、SNSをきっかけに彼女のルーツ探しがはじまり、横須賀〜アメリカ〜八王子を辿る映画には、奇跡的ともいえる出会いが描かれている。

監督 = 木川剛志 / 2021年 / 106分

2 ベイウォーク

12.11[土] 12:00-



マニラ有数の観光地でホームレスの寝床でもあるベイウォーク。作者はそこで眠る一人の日本人と出会った。事業の失敗で全てを失い何年もここにいると言う男を撮影する一方、第二の人生を求め高層マンションを購入したもう一人の日本人にもカメラを向け始めるが…。マニラの喧騒に流れ着いた男たちの、葛藤のルポルタージュ。

監督 = 桑田剛 / 2021年 / 90分

3 再びおかえり

12.11[土] 14:00-



幼少期から思春期まで13年にわたり、出稼ぎに行った両親と離れブラジルで暮らしたマルコスと妹2人。子供たちの教育費を捻出するための出稼ぎだったにもかかわらず、空白の時間は「子供達との絆」を失わせてしまった。家族の絆を築き直そうと奮闘する日系ブラジル人家庭の悲喜こもごもの日常を描くセルフドキュメンタリー。

監督 = マルコス・ヨシ / 2021年 / 105分

4 クナシリ

12.11[土] 16:00-



ベラルーシに生まれ、フランスを拠点とするコズロフ監督は北方領土・国後島を訪れ、その現状を見つめる。日本人が残した生活用具を掘り起こす男をはじめ、国境政策に翻弄された住民たちの生活は決して安泰とは言えないながらも、海の雄大さをはじめ自然の美しさを見逃さない監督のまなざしには、不思議と暖かさも感じられる。

監督 = ウラジーミル・コズロフ / 日本語版2021年 / 71分

5 大鹿村から吹くパラム

12.12[日] 10:00-

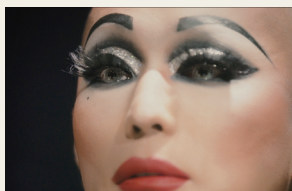


今は亡き原田芳雄が10年前に大鹿歌舞伎を知らしめた大鹿村はリニア工事により自然環境が危機に瀕していた。偶然の出会いから大鹿村を知った監督は前半ではイギリス人の暮らし方を中心に魅力的に描き、後半ではスローガン「リニアは理に合わない」に沿った住民運動を映し出す。題名に大鹿村に吹く風と今後への願いを込めた渾身の作品。

監督 = 金明允 (キム・ミョンユン) / 2021年 / 87分

6 であること

12.12[日] 14:00-



LGBTQ、マイノリティとひとくくりにされる人たちに、本当のどこを聞いてみたい。インティマシー・コーディネーターの西山ももこは8月の10日間、僧侶でメイクアップアーティストの西村宏堂、ドラッグクイーンのビビー・ジェロデルら9人と対話する。9人の自分自身「であること」を見つめ、十人十色な人の生へと迫る作品。

監督 = 和田萌 / 2020年 / 94分

7 ヨナグニ

12.13[月] 10:00-



与那国島の久部良集落にイタリヤからのクルーが入り、中学校の生徒たちを撮影したダイレクト・シネマ。島には高校がなく、卒業すれば沖縄や内地に進学することに。揺れる思春期の生徒たちの姿を、授業、

部活、放課後の遊び、本音が漏れる会話を美しい構図で撮る。島の方言も失われつつあり、国境の島の現在が伝わってくる好編。

監督＝A・ハムゼヒアン・V・モルタロッティ/2021年/77分

9 故郷とせっけん

12.13[月] 16:00-



伝統産業のせっけん製造が有名な、シリア・アレッポでせっけん工場を経営していたカダ八家。しかし、アラブの春を端緒とする戦いの拡大で、一家は国境を越えての移動を余儀なくされる。国境を越えてなお

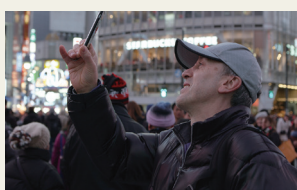
トルコで続けられる一家のせっけん作りの営みに、彼らの日々の想いが切実に、丁寧に織り交ぜられる渾身のドキュメンタリー。

監督＝八島輝京/2021年/131分

短編プログラム

1 異文化で暮らす

12.12[日] 12:00-



東京の朝鮮学校の学芸会に密着し、アイデンティティの問題に迫る『日本の中の小さな異国』。旧ユーゴ出身の不法移民が入管局による収容を経て、人々の助けを受ける『彷徨』。岐阜県の工場に派遣切りに

あったブラジル人一家に、次々と試練が襲いかかる『ブラジルノニッポン』。日本という異文化を生きる人達を撮った3本。

『日本の中の小さな異国』監督＝蔵岡登志美/2020年/20分

『彷徨』監督＝岩崎祐/2021年/27分

『ブラジルノニッポン～ある家族の記録～』監督＝若尾泰之/2020年/47分

3 コロナ禍を生きる

12.14[火] 12:10-



2020年に発令された緊急事態宣言中の東京にカメラを向け、〈夜の街〉や生活困窮者たちの叫びを記録した『東京リトルネロ』。同時期、活動休止を余儀なくされた宇都宮の小劇場とアーティストたちの

姿から、いま表現することの意味を問いかける『コロナとアーティスト』。コロナ禍で生き方を模索する人々を追った2本。

『コロナとアーティスト』監督＝鈴木智/2021年/35分

『東京リトルネロ』監督＝松井至、内山直樹、久保田徹/2020年/49分

8 #まなざしのかたち

12.13[月] 11:40-



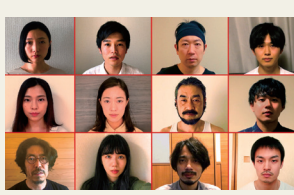
アフリカ諸国やアジアを舞台に、文化人類学者の清水貴夫と農学者の田中樹のフィールドワークから始まるロードムービー。学者としてのまなざしはいつしか撮影者や東京でモニターを見つめる編集者の目線

と多重層的に交わり、世界の複合性を織り成す。雄大な自然のロングショットや現地の何気ない生活風景が心地よく流れる。

監督＝澤崎賢一/2021年/124分

10 2020年 東京。12人の役者たち

12.14[火] 14:10-



コロナ禍の状況にあって、役者は何をおもうのか。12人の役者がスマートフォンを手に、表現者として生きることの葛藤、意志を自ら撮影した映像の数々が、一本の映画へと織りなされる。彼女彼らの日々は

現実なのか虚構なのか。短編劇映画をも本編に収め、コロナ禍の状況に対峙する役者たちの現在、リアルを炙りだす意欲作。

監督＝松本動/2021年/119分

2 いのちと医療従事者

12.14[火] 10:00-



いのちが限られた中、どのように大切な人との関係を結ぶか。『親のとなりが自分の居場所』は高齢の終末医療患者と、仕事を持たずに家にこもり続ける息子の関係の変化を描き、『小さないのちと家族の時間』は長くは

生きられない難病を抱えた新生児の両親が、在宅医療を選択する過程を描く。彼らが生活の中で見つけたかけがえのないものは。

『小さないのちと家族の時間-NICU面会制限の1年〜』

監督＝笹谷有佳里、西原英典/2021年/52分

『親のとなりが自分の居場所～小堀先生と親子の日々〜』

監督＝下村幸子/2021年/59分

4 身体パフォーマンス

12.14[火] 16:20-



大駝駝艦で活躍する奇才と映像作家による幻想譚『春の祭典』。知床で新たな音を探し求める音楽家を追う『UTURU』。歴史的な街リムリックでの詩的で視覚的なポートレート『ウィークリエイト・ス

ペーシズーリムリック』。音楽と身体の関係性を考察する『4』。映像表現と身体表現の邂逅が生み出す表現の可能性がここにある。

『ウィークリエイト・スぺイシズーリムリック』

監督＝ヘイケ・セルザー&アナ・ペーア/2020年/3分

『4』監督＝マリアナ・パラシオス/2020年/12分

『UTURU』監督＝今野裕一郎/2021年/48分

『春の祭典』監督＝梁鐘譽&アトム/2021年/44分

5 戦時下の異邦人

12.15[水] 10:00-



戦前、墜落死という最期を迎えた朝鮮人女性民間パイロットの生を韓国人女子大学生が辿った『日本で夢見た女性パイロット』。「特攻の地・知覧」の片隅に建つ、かつての敵国兵士を悼む慰霊碑を巡る物語を追

う『秘話』。『夜は隠す/Missing』は戦中期の蜂起事件や今日の労働者を闇という視点から連ねて描いたシネ・エッセイだ。

『日本で夢見た女性パイロット-朴敬元の生涯-』監督=李有斌/2021年/28分
『秘話-「知覧」にある米兵慰霊碑-』監督=佐藤仁紀/2021年/30分
『夜は隠す/Missing』監督=吉田真也/2020年/28分

7 それぞれの居場所

12.15[水] 14:00-



中国の街で深夜の牛乳配達に励む男の誇りと眩き。「タイタニック号」の模型ばかりを作り続けるマニアの鮮やかな手さばき。周囲の人々に支えられ、ボクシングやダンスに挑戦するダウン症青年の奮闘。地方都市で守り続けた書店を畳む老店主の書や街への思い...それぞれの居場所から聞こえてくる、人間の息づかいを記録した4本。

『町の夜行者』監督=陳鵬瑞(チン・ホウズイ)/2020年/7分
『15,000:1-タイタニック号模型のスクラッチビルド』
監督=ダン・パークス/2021年/10分
『オレやりたい!-ダウン症と生きる あっきーの挑戦』
監督=福田みなみ 2021年/29分
『本とオペラ-消えていく人-』監督=若泉政人/2021年/63分

9 アイヌとしてのアイデンティティ

12.17[金] 10:00-



アイヌというルーツと向き合う女性の思いや、作り手との交流を描いた2本。『ポネオハウ』は、アイヌ料理店を切り盛りする女性の暮らしに寄り添い、何気ない所で受けてきたこれまでの差別への葛藤を聞く。

『カムイ レンカイネ』は、阿寒湖畔で観光用の舞踊を踊る踊り子との意識の溝を、監督が身体表現を使って埋めることを試みる。

『ポネオハウ-アイヌの私-』監督=広瀬久美子/2021年/25分
『カムイ レンカイネ』監督=酒井直之/2021年/41分

特別プログラム

1 ハイスクール2021

12.12[日] 16:00-



高校生が制作した2本の新鮮なドキュメンタリーを特別上映。ミックスの二人が、学校や日常での葛藤を共有しながら創作に励む姿を描いた『アーク&マヤ: All Mixed Up』。『北園現代史』は、教員の頭髮指導強化に危機感を抱いた都立高校の生徒たちが、スクールカラーの「自由」について、OBや教員に広く話を聞き、考察する意欲作。

『アーク&マヤ: All Mixed Up』監督=三浦アーク、江藤まや/2021年/15分
『北園現代史-自由の裏に隠された衝撃の実態-』監督=中村真大/2021年/76分

6 かぞくのかたち

12.15[水] 11:50-



旧残留日本兵だった父と、ベトナム系タイ人の母との間に「トオイ」としてタイで生まれ、やがて日本で写真家となった瀬戸正人がかつての記憶を探る『トオイと正人』。実の両親へカメラを意識させながら撮

影することで見えてくる、ささやかな日常の愛おしさを反芻する『あなたたち』。家族の数だけ、多様な表現のかたちがある。

『あなたたち』監督=市川昂一郎/2020年/44分
『トオイと正人』監督=小林紀晴/2021年/63分

8 アート/ドキュメンタリー

12.15[水] 16:10-



瀬戸内の火の祭から想起する人間の原始、山道を歩く老人の背中を追うワンショットのカメラ、パンデミックで航路を失った人々を導く羅針盤。異国で30歳を前に揺らぐアイデンティティ、激動の2020年に自己を見つめる私と家族の唄、朽ちた場所から匂う往時の気配。日本のみならずアジア各国から届いた、独自の作風が際立つ作品の数々。

『ラ・ブソル La Boussole』監督=七里圭/2021年/8分
『食火』監督=ジョイス・ラム/2020年/11分
『透明な私』監督=村岡由梨/2020年/11分
『不在の存在』監督=山川智輝/2021年/12分
『ワン・デイ』監督=ジン・ジャン/2020年/24分
『30歳の旅At the Age of...』監督=ヨハン・ジャン/2020年/47分

10 クルドの歌声、インドの生地

12.17[金] 11:30-



クルド語が禁じられてきたトルコにおいて母語のクルド語で歌い続けた語り部・歌い手。今日本でも紡がれるクルド人の新たな物語を追う『地図になき、故郷からの声』。かつてインド独立運動の象徴ともなった手

紡ぎ・手織り布カディ、その意義とともに共同体を生きる一人一人の個性を映し出す『アイ・ウォーク』。土地の歴史と現在を問う2作。

『アイ・ウォーク』監督=小谷野五王/2021年/21分
『地図になき、故郷からの声』監督=中島夏樹/2021年/60分

2 至極の美術工芸

12.16[木] 12:10-



千葉県千倉町においてうちの制作過程を記録した映像を、兄が弟に見せる劇中劇に仕立てあげた伝説の民俗誌映画『うちはの出来るまで』。沖縄県瀬底島で、唯一の作り手となった大城善雄の笠づくりと生活を記録した『むんじゅる笠』。美術工芸の名人芸に迫るだけでなく、真摯に向きあう職人の姿をイメージに焼きつけた至極の2編。

『うちはの出来るまで』監督=宮本馨太郎/1930年/12分
『むんじゅる笠 瀬底島の笠』監督=城間あさみ/2021年/92分

1 スーパ・ライメ

12.13[月] 14:00-



南米ペルーのアンデス高地で牧畜を営むスーパ・ライメ一家。親子6人、リヤマとアルバカ200頭、羊15頭、ニワトリ5羽、馬とロバ。ある日、一家はふもとの村に移住することになるが…。PFFなどで高く評価される藤川監督が、およそ一年半にわたって遊牧民の営みを記録。美しいロングテイクが観る者を南米の時空へいざなう。

監督＝藤川史人／2020年／103分

2 銀鏡 SHIROMI

12.16[木] 10:00-



宮崎県の奥日向にある銀鏡の里。農家の人たちは柚子や唐辛子を育て、加工までを担っている。過疎化の波にさらされながらも、森に住む動物たちや山の恵みを感じる土地。年に一度、神聖なる自然と人間が一体になるのが、銀鏡神社に古くから伝わる「星の神楽」。そのために舞を稽古し、祭りを準備する人たちの姿を丁寧に描く。

監督＝赤阪友昭／2021年／113分

3 エスニシティの現在

12.16[木] 14:10-



伝統的な土葬の儀礼をおこない、古老から若者へ言語や文化が継承されるさまを記録した『アイヌプリ埋葬』。カレン族が暮らすタイの山村で伝統が失われ、観光化が進む現在を見つめる『風苗』。辺境地域

にも押しよせる現代文明によって失われる伝統文化と、自らのエスニシティを守り、受け継ぐ人びとの姿を映し出す2作品。

『アイヌプリ埋葬・二〇一九・トエベツコタン』監督＝藤野知明／2021年／64分
『風苗』監督＝白井樹／2020年／46分

4 祭祀のエクスタシー

12.16[木] 16:20-



エチオピアの少女たちが華やかな衣装で着飾り、喜捨をもとめて歌い踊る風習を撮った『アシェンダ!』。ウズベキスタンのムスリム女性が楽しむ春の祝祭を記録した『神授の花』。マダガスカルマダガスカルの漁村でおこな

われる憑依儀礼を、ひとりの霊媒の男に焦点をあてて描く『スルンベ』。映像人類学がフィールドでとらえた祭祀を紹介する。

『アシェンダ! エチオピア北部地域社会の女性のお祭り』
監督＝川瀬慈／2020年／38分
『神授の花-フェルガナの女性とイスラーム』
監督＝I・メリコズィエフ／2021年／23分
『スルンベ マダガスカル南西部の憑依儀礼』
監督＝飯田卓／2021年／48分

特集 シャーマニズム

1 冥界婚

12.17[金] 13:20-



韓国には、独身で亡くなった男と女を死後に結婚させる風習がある。本作では、遠洋漁業で死んだ34歳の男と、失恋で自殺をした27歳の女性を、金石出というムードンが冥界婚させる。シャーマンが口寄せし、男

性の霊が従兄に憑依して自己の死の詳細を語るシーンは圧巻。死者と生者の感情が交錯し、哭きと恨のめくるめく世界が現出する。

監督＝北村皆雄／2018年／104分

2 憑依する精霊たち

12.17[金] 15:20-



樺太先住民のシャーマンを撮った『オロツコ・ギリヤークの生活』、タンザニアの女性が呪術師になる過程を記録した『呪術師の儀礼』、ネパールの秘祭と精霊が宿る供物に迫る『神が宿る供物』、青年たちが動物霊に憑依されて失神する『憑依の宴』、カリブ海のガリフナ人の祭儀を撮った記録『ドゥグ』。精霊と人との交信を描く5本。

『オロツコ・ギリヤークの生活』監督＝宮本馨太郎／1938年／18分
『呪術師の儀礼 タンザニア』監督＝松永由佳／2021年／8分
『神が宿る供物 -ネパール・パタンのパンチャリ・プザ祭り-』
監督＝山上亜紀／2021年／18分
『憑依の宴 ジャワ島のジャティラン』監督＝金子遊／2021年／15分
『ドゥグ ガリフナの祖霊信仰』監督＝富田晃／2021年／39分

TIME TABLE

2021 12.11 SAT ▶ 12.17 FRI

12/11 [土]	10:00 [長編1] Yokosuka 1953 (106分)	12:00 [長編2] ベイウォーク (90分)	14:00 [長編3] 再びおかえり (105分)	16:00 [長編4] クナシリ (71分)
12/12 [日]	10:00 [長編5] 大鹿村から吹くパラム (87分)	12:00 [短編1] 異文化で暮らす (94分)	14:00 [長編6] であること (94分)	16:00 [特別1] ハイスクール2021 (91分)
12/13 [月]	10:00 [長編7] ヨナグニ (77分)	11:40 [長編8] #まなごしのかたち (124分)	14:00 [人類学1] スーパ・ライメ (103分)	16:00 [長編9] 故郷とせっけん (131分)
12/14 [火]	10:00 [短編2] いのちと医療従事者 (111分)	12:10 [短編3] コロナ禍を生きる (84分)	14:10 [長編10] 2020年 東京。 12人の役者たち (119分)	16:20 [短編4] 身体パフォーマンス (107分)
12/15 [水]	10:00 [短編5] 戦時下の異邦人 (86分)	11:50 [短編6] かぞくのかたち (107分)	14:00 [短編7] それぞれの居場所 (109分)	16:10 [短編8] アート/ドキュメンタリー (113分)
12/16 [木]	10:00 [人類学2] 銀鏡 SHIROMI (113分)	12:10 [特別2] 至極の美術工芸 (104分)	14:10 [人類学3] エスニシティの現在 (110分)	16:20 [人類学4] 祭祀のエクスタシー (109分)
12/17 [金]	10:00 [短編9] アイヌとしての アイデンティティ (66分)	11:30 [短編10] クルドの歌声、 インドの生地 (81分)	13:20 [特集1] 冥界婚 (104分)	15:20 [特集2] 憑依する精霊たち (99分) 17:20~各賞授賞式 入場無料

※各回、監督による舞台あいさつを予定。決定次第、映画祭のサイトやSNSで発表します。詳細は公式サイトをご覧ください。

公式サイト: tdff-neoneo.com

ツイッター: @TDFNeoneo

フェイスブック: [tdff.neoneo](https://www.facebook.com/tdff.neoneo)

インスタグラム: [tdff.neoneo](https://www.instagram.com/tdff.neoneo)

主催: 東京ドキュメンタリー映画祭事務局 (neoneo編集室)

問合せメール: tdff.neoneo@gmail.com

ドキュメンタリーマガジンneoneo webと連携した
批評プロジェクトも実施予定!

【映画祭事務局】

プログラマー: 金子遊 佐藤寛朗 澤山恵次 若林良 吉田悠樹彦 津留崎麻子 田淵絵美 赤塚実奈子

人類学・民俗映像部門予備審査員: 山上亜紀 遠藤協 金子遊

メインビジュアル、フライヤーデザイン: 三好通 フライヤー編集: 菊井崇史 WEBデザイン: 古谷里美 パブリシティ: 大久保渉

主催: neoneo編集室

後援: 一般財団法人 宮本記念財団

協賛: アジアドキュメンタリーズ、エトノシネマ

助成: 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

芸術文化振興基金

12/11(土)~12/17(金)公開!!



【料金】

1,500円均一 (小・中・シニア 1,000円)

※ご鑑賞の3日前の0:00より、上映時間の30分前まで
WEBでチケットがご購入いただけます。
(特別鑑賞券の場合は窓口のみ対応)

【特別鑑賞券発売中!】

1回券 1,300円 3回券 3,300円 (数量限定)

※WEB予約では使用できません。
窓口にて指定席券とお引換ください。

新宿駅東南口階段下 甲州街道沿ドコモショップ左入ル

新宿 K's cinema

03 (3352) 2471 www.ks-cinema.com

各回入替・全席指定席

東京都新宿区新宿3丁目35-13

JR新宿駅 東南口 徒歩3分 東口徒歩5分

